

企業訪問 循環型最前線レポート

三州建設（株）

「見えないからこそ

見せていく」

そんな仕事をしています

三州建設（株）



三州建設株式会社

■代表者／竹内臨通夫

■所在地／愛知県新城市大海字中貝津16番地の6

TEL.0536-25-0062 FAX.0536-25-1036

新城市を拠点に、三遠南信地域での工事を手がける三州建設は解体工事を中心に土木工事、産業廃棄物処理に加えNPO法人ななさとグループの一員として環境事業にも取り組んでいます。

代表取締役の竹内臨通夫氏は「解体業者にとって今、頭を悩ますところは、原材料がはっきりしない素材が多いことです。リサイクルできにくい建材が増えてきたので、今後は協会全体として、新しい建材を開発する設計の段階から協議していこうという取り組みがスタートしています。」と解体業界の問題点を口にします。



竹内臨通夫代表取締役

三州建設株式会社 営業企画室 室長 青木琴美氏は「建設業界は、現在作る方と壊す方が全く別に考えられているため、捨てることを全く考えていません。家電業界では家電リサイクル法でメーカーが回収する形になっていますから製造段階からリサイクルを考えられています。こうして一貫してまとめていかないとリサイクルができません。実際にこれまで半永久的と言われていたコンクリートが半永久的ではなかったとか、小学校に木造校舎が復活するなど元にもどってきてる部分もあります。

結局作ることの安さよりもライフスタイルコストを考えると昔の建物が1番になってきます。産廃も新しいものから昔のものに返っていくかもしれません。だからこそ解体業者から声を上げていく必要が

あると思っています。設計士が線を引き、それに基づいて建てられるわけですから、その段階でわかってもらわなくてはいけません。そういう気持ちも込めて、会社のロゴマークはリサイクルにかけて“リサイくるん”です。」と話す。



リサイくるん

「国交省が4月から解体業を業者として認定されることになりました。そうすると建築、土木、解体業の3つの業界の交流ができるようになります。これまでは建築業の下請けとしてしか見られていませんでしたが、これからは意見交換なども各所で活発に行われます。現在、大手メーカーが自社ブランドとして使用する安価でおしゃれな建材の多くは埋立でしか処理できないので、そういった状況にブレーキをかけるような提案もしていきたいと思っています。例えばアスベスト、同じ轍を踏まないためにも開発段階からの配慮が必要です。

先週協会で建設部会がありました。もう一つの問題として、そこで話題になったのは震災ガレキのリサイクル品がどんどん入ってくるために、地元で作られるものが余ってしまっているということです。震災復興が優先のため、チップも同様です。しかし調整してもらわないと地元としてもアンバランスな状況になってしまいます。

解体や産廃は歴史が浅いので、なかなか意見を取り上げられませんでした。協会を全国的にして、県に事務所をおいてなど努力をしてきました。ただ一部の悪質な業者の行為でどうしても業界全体のイメージがダウンしてしまうのが残念です。」と語る。「地元の人が働いているので人件費はかかるし、きち



木くずリサイクルを行っている富栄リサイクルセンター



営業企画室 青木琴美室長

んと処理しているので必要な経費はかかりますから、適正価格はあると思います。

うちは他社から請け負うのではなく、自社で出たものを適正にリサイクルしようという会社です。社内で循環しているわけです。コスト単価はバーゲン材とかわりませんが、取り組む価値、意義はあると思います。奥が深くて出口の見えない作業ではありますが、やり甲斐はあります。

最近では行政も民間の意見も組み上げてくれる時代になりましたので、意見交換の場を設けてくれますからいろいろな提案をしていきたいと思っています。また不動産会社も経営していますので、地元の開発にも参画しています。新東名高速道のインターがで、三遠南信道路も開通していますので、これからこの地はどんどん変わっていくと思います、ご期待ください。」と力強く語っていただきました。これからの三州建設のさらなるご発展をお祈りしています。

